

# 誤嚥性窒息死のない世の中へ！命の危険が潜む夜間労働者(個人・団体)に愛と光を!!

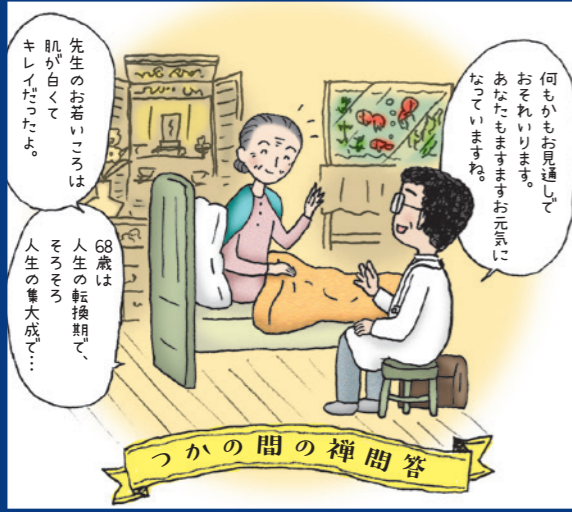
# ～安全・安心・健康塾～

## 連載 121 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長  
橋本 満義 (68歳・内科)

〈ボランティア活動〉  
人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)  
現場の人達を救命救急士として教育する  
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



長年の在宅患者さんは、ややもすると“攻守所”を変えて“求道者”となる。

在宅患者さんお二人(88歳、90歳、女性)に「私はもう68歳です。人生やるべきことはやらせていただき、大変幸運でした」と私が言うと、彼女たちはこう答えました。「もう68歳ではなく、まだ68歳ですよ。今からが人生の集大成に入り、後半の人生には今までの経験が生かされ楽しく充実したものになるのですよ」と。

T.Tさん(88歳の女性)は慢性喘息気管支炎で、在宅酸素を終日必要としている独居生活者です。奥ゆかしい知識人でいらして、趣味は日本伝統芸能といった方です。先ほどのお話を聞いた私は、一瞬にして全身がおどろきと感動につつまれ、幸せ感あふれる思いをしたのでした。

H.Oさん(90歳の女性)は心臓弁膜症と慢性心不全

です。私が在宅訪問をした際、こうおっしゃいました。「先生に初めてお会いした時、お肌も真っ白できれいな顔をした男前だったよ」(初めてH.Oさんにお会いしたのは30年近く前のことです)。

このようなやりとりをしたのは、昨年暮れころのことでした。そのころの私は院長職を有能な医師に譲り、理事長職に専念しながらも医師として今後も頑張ろうと決心していたころです。私の心のどこか奥底に、ひとつの区切りといいますか卒業式とでもいったような感情があって、知らず知らずのうちに老化現象に立ち入ってしまったのかもしれません。

その日を境に、進化を求めるマグマが私のからだを駆け巡り、人生100年の時代といわれる介護医療サービスや精神の支柱構築に思い巡らすこととなったのでした。

患者さんへのサービス事業者の対応として、もちろん親切丁寧に業務を遂行しますが、それはあくまで仕事上のことであり、患者さんは友人ではないので越えてはいけない一線があるとされています。またそれが当たり前なことなのです。

しかし自然界では、お互い全てで影響しあって進化し未来に向かっていくこともまぎれもない事実です。しっかりとこれらのことも理解した視座を持ち、さらに高度な介護医療と人間学が求められる時代に突入したのでしょうか。

そういったことも踏まえ、当院では、老人の性についてのライフワークとして、仏教界の「密教・理趣経・殺の問題」について、正面から取り組み始めることにしました。

## 外来診療(かかりつけ医) 総合内科・漢方診療科

お医者さんが来てくれる 24時間・365日体制で対応 (松山市全域)

私たちが、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 19名  
 内科・外科専門医 16名 (国立がんセンター勤務歴有3名)  
 精神科専門医 1名  
 麻酔科専門医 2名 (ペインクリニック科)  
 末期がん治療(緩和ケア)相談室開設!

(医)東西会イメージキャラクター「イチゴ・ツル・カメ」三世代の「絆」を表すキャラクターです。イチゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

H.27 大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関  
H.29 関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所  
(医)東西会 千舟町クリニック  
松山市千舟町6-4-9  
Tel:089-933-3788  
http://www.touzaikai.jp/